



動物と出会い 人と触れ合って 心のときめきをコーディネートするために — ZOO VOLUNTEER

円山動物園  
ボランティア会

# ふれあい・コンタクト

ニュースレター第53号 2012(平成24)年8月25日発行 発行責任者:佐藤國男(代表世話役)

〒064-0959 札幌市中央区宮ヶ丘3 札幌市円山動物園内 円山動物園ボランティア会 TEL(011)621-1426(円山動物園)

## 動物園ボランティアガイド

### ●ミニツアーガイドの現況

#### 柴田飼育展示課長より

お客様から好評のボランティアガイドには、『予約制ツアーガイド』と動物舎前での『ポイントガイド』があります。

とくにツアーガイドについては、動物園としても積極的に広報し、メンバーの皆様には、平成23年度は前年度の倍の件数に対応していただいたところです。その上で先般、「旅行等でお越しになり、思いがけずガイドを依頼できたら深く思い出に残るはず。当日参加できるガイドの体制が組めたらいいですね。」とお話したところ、さっそく『ミニツアーガイド』としてご検討をいただき、感謝しています。

この「ガイド」は、4月14日(土)より、毎週土曜日の午前10時から園全体を回るガイドとして試行でスタートしております。

お客様が動物を楽しくご覧になれ、さらに札幌の楽しいところや季節のことも話しながら巡るといった、当日お願いできるガイドを、人間味あふれ個性豊かなメンバーの皆様におこなっていただければ、お客様は「円山動物園に行ったら、楽しいガイドさんとお話をしながら回ったよ。」と、きっと周囲にPRしてくださるものと思います。

実施しやすい方法等をご検討いただき、将来的にはガイドブースの設置やパンフレットへの掲載等、円山動物園のおもてなしメニューの目玉としてじっくり育てていただければ、本当に心強くありがたく思います。

### ●工夫を凝らしながら…

4月14日から始まった「ミニツアーガイド」が、7月末で15回になった。ガイドする者が工夫を凝らし、多少なりともお客さまのために役立つよう、努力をしてきた。

ミニツアーに参加されるのは家族が多いこともあって、話の内容も、そのときどきに即したものになってくる。難しいのは幼児がいる家族のときで、ガイド時間の配分や、参加者の興味・関心とともに幼児やお年寄りの疲労度にも注意をはらう必要がでてくる。とはいえ、ポイントガイドが終わって次に引き継ぐとき、お客さまから「楽しい時間でした。また来ます。」と伺うと、ガイドのし甲斐を改めて感じる。

この活動を通年で実施できるようにするため、皆さんの協力をお願いします。 [小熊 瞳:記]

### ●ツアーガイドで子どもたちに夢と希望を!

6月12日(火)、江別市の愛保育園の子どもたち30名が、今年もまた元気に動物園にやってきました。可愛い幼い子どもたち(5歳~6歳)に夢と希望を与えたいと思い、ガイド3名が担当して、一生懸命ツアーガイドをおこないました。しかし、分かりやすく、そして面白く解説するのは本当に難しい…。

これからもガイドとして、心と技を磨き続けていかなければと心に誓った日になりました。

後日いただいたお礼の手紙には、「子供たちが色々な動物の絵を描きましたが、黄色やしましま模様のカラフルなヘビを描く子が多く、すべての絵はホールに飾っています。」と書いてありました。 [竹尾昌己:記]



円山動物園の魅力をたくさんの人たちに伝えたい…(左・中:ミニツアーガイド、右:予約制ツアーガイド)

## 魅力それぞれ…園&館探訪記

### ●湾岸動物園・水族館見学記

円山動物園ボランティア中島さん、藤田さん、OBの足立さんと、6月11日から3泊4日で『千葉市動物公園』、『鴨川シーワールド』、『横浜ズーラシア動物園』を研修見学してきた。

三施設ともそれぞれ特色があり、中でも房総『鴨川シーワールド』はテレビでは見ていたが、シャチの大迫力アドベンチャーを目の当たりにして改めて感動した。鯨をも襲うどう猛な海の狩人シャチ。鴨川シーワールドにはファミリーのシャチが4頭、その父親シャチが私の頬にキスをしてくれた。感激感動の一瞬だった。あのどう猛な海の王者シャチを、どうやってこれだけ



シャチからのキスに感激！

慣らすことができるものなのか、驚きの連続。

また、ベルーガ（シロイルカ）のパフォーマンス等々、時間を忘れ、海の動物を堪能した一日だった。

[紺野仁一：記]

### ●千葉市動物公園は自然がいっぱい

立ち上がるレッサーパンダ「風太君」で有名になった千葉市動物公園は、自然がいっぱいで、草食動物がのんびりと生活している公園です（猛獣がいない）。

6ゾーンに分かれ、「家畜の原種ゾーン」では、長い年月をかけて人間生活にかかわってきた、ウシ・ウマ等の原種に近い動物に会うことが出来ました。「モンキーゾーン」では、腕組みしてじっと考え事をしているゴリラに円山の「ゴン」を思い出し、顔をガラス面にぴったりつけて人間観察しているオランウータンに、思わず話しかけてしまいました。

円山動物園同様に沢山の樹木に囲まれた中を散策しながら、時々動物たちに会えるのは、とてもホッと出来るひと時でした。

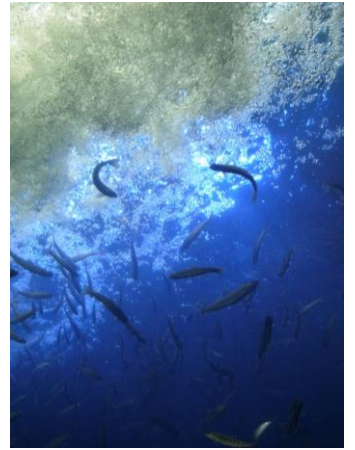
[中島香代子：記]

### ●山の水族館へ行って来ました

北見から車で走ること30分——山の中にその水族館はありました。7月7日にリニューアルオープンした『おんねゆ温泉 山の水族館』です。ここには、川魚と温泉水を利用した熱帯淡水魚が展示されています。

なんと言っても見どころは、滝つぼを下から見上げているかのような水槽や1m級のイトウたちが悠々と泳ぐ

姿が印象的な水槽です。なかでも私が離れられなかったのは、約15分毎に水位が低くなると魚たちが上流に向かってジャンプしはじめるという「ジャンプ水槽」です。残念ながらジャンプは見られませんが、川魚の観察にはもってこいの場所でした。



まるで滝つぼ？

とっても小さな水族館でしたが、いつまでも魚たちを見ていたくなる、そんな魅力のある素敵な水族館でした。 [高橋しのぶ：記]

## まるやま ZOO あ・ら・かると

### ●「ラーズ」福島へお嫁入り

繁殖を目指して“福島アクアマリン”へ嫁ぐ、トドの「ラーズ」を送る会が行われました。

見上園長とボランティア代表の丹野さんから はなむけの言葉がおくられたあと、集まったお客様に、土佐飼育員よりご挨拶がありました。「14年間、男手一つで育ててきたラーズを手放すのは、つらく淋しいことだが、今はとても清々しい気持ち。よいオスがいたら結婚させてほしいとお願いしていたところ、福島の水族館の方が来て、『スゴク可愛い。この娘をぜひほしい』と言ってくれた。僕もこの人たちだったらと、『よろしく願います』と言った。ラーズは海獣舎一の美人。気分屋だが愛嬌いっぱい。福島でもみんなに愛されてほしい。ラーズの親は子たくさんで子育て上手。ラーズもそんなお母さんを目指してほしい——親心にあふれた涙、涙のことばでした。

その間ラーズは、何度も何度も水面から顔を出し、まるで「サヨナラ、アリガトウ」といっているようでした。私も心の中で、「こちらこそありがとう。子どもが出来たらいつか会いに行くネ！」と呟いていました。

[水戸久仁子：記]



元気でね！ ラーズ



## キーパーさん紹介

春の異動で円山動物園へ… 李 泳 斉 さん



Q 円山動物園へはいつ来られたのですか？ ご担当の動物は？

A 今年4月、南清掃事務所から来ました。私の職種で異動が可能であったのと、飼育の仕事に大変魅力を感じたので希望しました。現在は熱帯鳥類館バードホール、サンシヨクキムネオオハシ、ナキサイチョウ、クジャクなどを担当しています。

Q 今までのお仕事とずいぶん違うと思いますが、どんなところが難しいと感じますか？

A なにより動物の管理が大変です。餌の食べ具合や糞の状態、羽の艶などで鳥たちの健康状態に注意します。残った餌を見ながらその日の量を調整したり、配合に注意したりしています。

Q お客様にアピールしたいことや鳥たちのエピソードなどを教えてください。

A トビやアメリカワシミズクのフリーフライトはぜひ見ていただきたいですし、九宮鳥のおしゃべり、サンシヨクキムネオオハシの食事風景などもおすすめです。エピソードは、ホールにいるテンニン鳥がカエデ鳥に託卵することでしょうか。

Q 鳥類館の動物への接し方で注意する点は…？

A とにかく気長に、自然に同化するよう観察をすることが大切だと思います。また、動物すべてに対してだと思えますが、やさしく接していただきたいものです。

Q これからのことを伺いたいのですが…。

A 笑顔と活気に満ちた動物園・札幌市・北海道になって欲しいと思いますし、プライベートでは、よき父、よき夫、よき隣人でありたいと思います。また、将来は生物学や環境学にも取り組んでみたいと思っています。

— 7月末の蒸し暑い日、熱帯鳥類館でお会いしました。挨拶を交わしての第一印象は「まじめ、真摯、努力家、紳士的、好青年」。ほかに、どんな言葉があてはまるでしょうか。ほかの飼育員さん方も、口を揃えます。仕事ぶりもそのままです。札幌生まれの32歳。趣味はスポーツ観戦と読書とか。お客様に最高の状態で、動物たちを見せたいという想いで毎日进行し、誇りを持って仕事をしていらっしゃいます。私たちボランティアにも感謝の言葉をいただきました。お忙しいところ貴重なお時間を割いていただき、ありがとうございました。



コタローです

### ●熱帯雨林の環境大使

僕は、旭山動物園からブリーディングローンでやってきたシロテテナガザルの『コタロー』7歳です。白い手がチャームポイントだよ。よろしくね。

仲間はタイ、マレー半島、スマトラ島など東南アジアの熱帯雨林に棲んでいて、森林伐採や狩猟により仲間の数が減り、絶滅危惧種に指定されているんだ。円山動物園では、昭和

56年以来の飼育で、31年ぶりの入園なんだって。

今、一人ぼっちで環境も変わり、体育座りしていることもしばしばあるけれど、本来は長い腕を使って、渡り移動するブラキエーションが得意なんだ。ひと跳びで10mほど飛ぶことも出来るんだよ。長い手でボールを操れば、魔球を投げる事が出来るかも？

家族単位の群れで樹上生活をし、水は苦手。7~8年で性成熟に達するので、いずれ、ズー(ZOO)と一緒にいてくれるお嫁さんと広い遊び場が欲しいな！

【小松久恭：記】

### ●動物園でのひとこま

動物園で催された夏のイベントをご紹介します。

① 7月14日、競走馬の展示と乗馬体験(ひき馬)があり、ファンや子ども達の人気を集めていた。

② 動物園と札幌ドームのコラボ。7月7・8日の二日間、それぞれ約40名のお客様が見え、目の前の動物の話や午後からの日ハム戦予想などもごも、一時間を過ごした。

【田中茂雄：記】



人気の乗馬体験(上)と札幌ドームとのコラボ事業(下)

## ●円山動物園ジュニアガイド育成講座

この育成講座は、コープさっぽろ文化講座と円山動物園との共催で、「子供達に自然や命の大切さを伝える」企画によって実施された。7月7日・14日・21日の三日間で、対象は小学4年生～6年生。男子6名、女子3名の計9名が参加した。講座内容は次のとおり。

### \*一日目/テーマ「動物園を知ろう」

講師の朝倉さんが猛禽舎からサル山、熱帯動物館、モンキーハウス等を案内。子ども達の質問に答えながら、ユーモアを交えて説明。補助役として、ボランティアの都築・島津・小熊・上田が同行。

### \*二日目/テーマ「動物観察のコツ」

朝倉講師から、「決めた動物をよく見る。動物の体格や色、角、毛などの特徴を見る。ふだんとの違いを見る。ガイドをするときは、相手を見て、言葉づかいに気をつける。笑顔と大きな声で話す。」などの確認があり、その後、エゾシカ舎へ向かう。

エゾシカ舎では、ボランティア4名がグッズ（角、夏毛・冬毛の毛皮、ペレット）を使ったポイントガイドをし、次回までの宿題をもって解散。

### \*三日目/テーマ「ガイドをしてみよう」

三つのグループは教室で事前練習をして、話す内容をまとめ、エゾシカ舎前で実習開始。はじめは一般客への呼びかけができなかったり、話す内容が重複したりしていたが、グッズに興味を持って集まるお客さんに少しずつ説明できるようになっていった。

ガイドをした子どもたちからは、お客さんへの呼びかけ方や話の続け方、ガイドの終わり方などが難しかったとの感想があった。コープさっぽろの担当者から修了証書と記念品が渡され、講座は終わった。

【小熊 瞳：記】



がんばったね(^-^) ジュニアガイド



アジアゾーンの完成予想図

## ▶▶▶ アジアゾーンが12月オープン予定です

今年はいよいよアジアゾーンがオープンします。

アジアゾーンは、アジアの寒帯地域、高山地域、熱帯雨林地域の動物たちを集めたゾーンで、アムールトラやユキヒョウ、レッサーパンダ、マレーグマなどを飼育します。彼らがのびのびと暮らすことができ、またお客様ものんびりじっくり動物たちを観察して楽しめる施設になると思いますので、ご期待ください。

平成27年度にはアフリカゾーンも完成予定です。現在、動物たちが生き生きと暮らし、お客様にとってもワクワクできるような施設になるよう計画が練られています。是非ご期待下さい。

## ▶▶▶ 円山動物園ボランティア8期生が現場に配属されました

8月18日をもって待望の8期生研修が終わり、いよいよ現場に配属されました。当初予定の20名には満たなかったものの、16名の精鋭です。よろしくお祈りします。全員、あらかじめ希望した班へ所属することになりました。8期生の皆さんが快く活動することができるよう、これまでのボランティア活動を振り返り、過去に志半ばで挫折していった新人達がいいた経緯などもふまえて、良い方向へと改善していこうではありませんか。

8期生の皆さんをご紹介します（敬称略）。顔写真は掲示板でご確認ください。

茂木宏樹（クマチカ班） 小出健太郎（やせい班） 杉浦秀彦（ふれあい班） 阿部功馬（やせい班）

谷津里枝（クマチカ班） 中山由子（クマチカ班） 浅野まき（ふれあい班） 柳田コト（やせい班）

菊地一夫（クマチカ班） 古林友己（ふれあい班） 高田敏文（クマチカ班） 木村則夫（ふれあい班）

堂前恵子（クマチカ班） 塚本美津子（ふれあい班） 佐伯百合子（やせい班） 西原めぐみ（クマチカ班）

【編集後記】 暑い日は何日あったのだろう。ボランティアのビール会の頃に「今日は暑いねー、蒸すなー」と言っていたのに、いつの間にか秋風になっている。53号発行が予定より遅れてしまったことをお詫びします。まだまだ残暑が続きます。ご自愛ください。

■編集責任者：上田得一 ■編集スタッフ：大地 淳・小熊 瞳・加藤啓子・小松久恭・高橋しのぶ・田中一江・田中茂雄・成田 愛・星原恵子・松山幸子・水戸久仁子・山川泰弘（50音順）